



デフアスリートを ささえる

競技別手話言語通訳ガイド
[バレーボール編]

Volleyball



目次

- P.1 目次
- P.2 ごあいさつ
- P.3 デフリンピックが日本で開催
- P.4 スポーツ分野で通訳するための準備
- P.5 ろう者とバレーボール
- P.6 主な大会
- P.7 バレーボールの基本ルール
- P.8 バレーボールのコート表
- P.9 バレーボールの用具
- P.10～11 バレーボールのユニフォーム
- P.12～14 デフバレーボールの情報保障
- P.15～22 バレーボール用語の手話

ごあいさつ



全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会 委員長
太田 陽介

スポーツ庁は「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツライフを通じて、スポーツ参画人口の拡大を目指しています。アスリートのプレーを「みる」、ボランティアの「ささえる」活動を通して、「する」スポーツへの興味が喚起され行動へとつながることが期待されており、きこえない、きこえにくい人のスポーツ活動を通じた社会参加と共生社会の実現にも通じる取組になります。

2025年に東京・福島・静岡で開催されるデフリンピック（主催 / 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD)）は、日本では初めての開催であり、また1924年にパリで最初のデフリンピックが開催されてから100周年の節目となる大会になります。

この大会の開催を契機に、手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、スポーツ施設や競技大会において、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発が進んできています。一方で、きこえないアスリート（デフアスリート）がスポーツをするにあたっては、スポーツ関係者によるきこえないことや手話言語への理解促進とともに、デフアスリートのスポーツ活動をささえる手話言語通訳者の育成が重要になっています。

そこで、本委員会では令和2年度より、スポーツに精通した手話言語通訳者の育成を目的として、スポーツ庁の「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託しており、令和5年度は、国内外でのスポーツの国際大会の場で手話言語通訳者が必要な知識を解説するデフスポーツの国際大会における国際手話通訳編と、専門種目としてオリエンテーリング競技、バレーボール競技、ビーチバレーボール競技を解説するパンフレットを作成しました。スポーツ活動の現場で通訳を行う方々の知識と技術の向上にこれらの手引きが役立つことを願っています。

デフリンピックが日本で開催

2025年に東京でデフリンピックが開催

2025年11月15日～26日に東京・福島・静岡でデフリンピックが開催されます。

デフリンピックとは？

きこえない選手の国際的なスポーツ大会です。デフ(Deaf)とは、英語で「きこえない」という意味です。

オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会が2年ごとに交互に開催されます。競技ルールはオリンピックと同じですが、きこえない選手のための視覚的保障がなされた競技環境があることがデフリンピックの特徴です。

視覚的保障とは？

音や審判の合図がきこえないという、選手にとって不利な状況を視覚的に補うことです。

デフリンピックでは、陸上競技や水泳競技のスターターの音はフラッシュランプを使って選手にスタートを知らせています。サッカーやラグビーでは審判が笛を吹くとともに、旗または片手をあげることで反則などが起きたことを選手に知らせます。



国際的なデフスポーツ大会について

きこえない選手の国際的なスポーツ大会には、デフリンピックの他に、国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)公認の世界ろう者選手権大会やアジア太平洋ろう者スポーツ連合(APDSC)主催のアジア太平洋ろう者競技大会等があります。

URL: ICSD公式ホームページ <http://www.ciss.org>

国際的なデフスポーツ大会への支援

スポンサーが少なく、経済的負担が大きいなどの課題があるため、SNS(FacebookやInstagram、Xなど)を通して発信していただくことで、デフリンピック知名度アップにご協力ください！



URL: デフスポーツ・サポーター募集
<https://www.jfd.or.jp/sc/supporter>



URL: 東京 2025 デフリンピック大会
<https://www.deaflympics2025.com/>

スポーツ分野で通訳するための準備

きこえない人のスポーツ活動を通じた社会参加を支える手話言語通訳者が、通訳者としての倫理観を備えた上で準備しておくべき知識と技術を、「共感力・協働力」「言語技能・表現力」「場面对応力、実践力」「スポーツ関連・競技ごとの専門知識」の4テーマに整理しました。



このガイドブックでは特にバレーボール競技に必要な知識を紹介します。

ろう者とバレーボール

デフバレーボールとは

デフ（きこえない・きこえにくい人）によるバレーボールのことです。
チームメイトの声、審判の笛の音、ボールをはじく音などが聞こえない状態でプレーをします。

それぞれコートや用具、競技形式など一般のバレーボールのルールと同じです。
（ネットの高さ：男子 2.43m、女子 2.24m）



主な大会

1. 国内大会

※都道府県レベルから全国レベルまで一般の大会も含む

・ジャパンデフバレーボールカップ (JDVA主催)

デフ（聴覚障害者）+カップ（大会杯）を組み合わせた造語で、6人制バレーボール大会です。聴覚障害者のみで行われ、2001年から年に1回開催されています。開催規模は300人～400人です。

・ジャパンデフマスタースバレーボールカップ

40歳以上のプレーヤーによるバレーボール大会です。2013年から年1回開催されています。

・全国障害者スポーツ大会地区予選（5～6月頃）

・全国ろうあ者体育大会（9月頃）

・全国障害者スポーツ大会（10～11月頃）



2. 国際大会

・夏季デフリンピック競技大会

・アジア太平洋ろう者競技大会

・デフバレーボール世界選手権大会

2024年は、沖縄で大会が開催されます。



↑デフバレーボール世界選手権大会 2024 沖縄

バレーボールの基本ルール

6人制バレーボールの基本

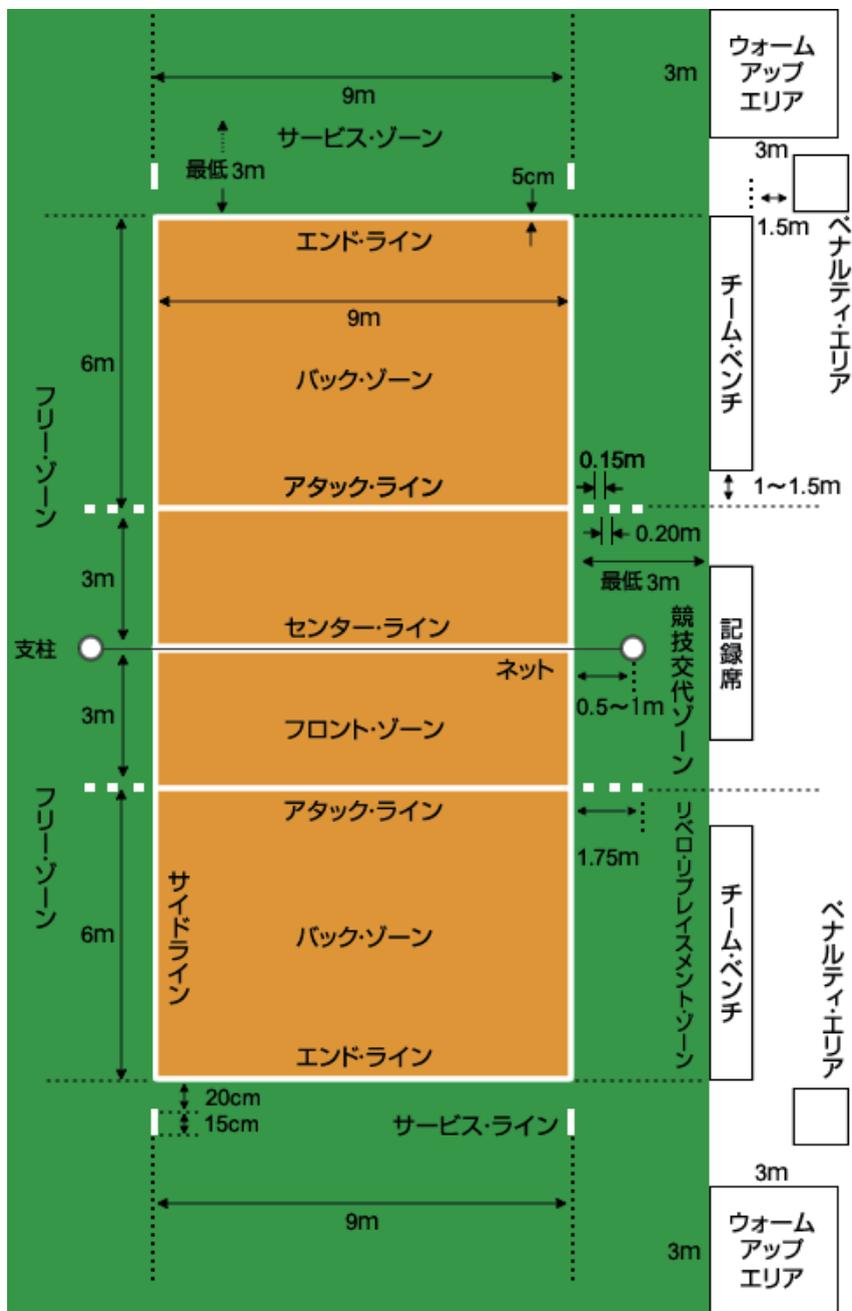
- ・1チーム6人でプレーします。1試合5セットマッチで行われます。1つのセット（最終第5セットを除いて）最小限2点差をつけて25点を先取したチームが勝利チームとなります。
- ・24対24の同点（デュース）になった場合、相手チームより2点リードするまで試合は続けられます。
- ・セットカウント2対2となった場合、最終第5セットは最小限2点差をつけて15点を先取したチームが勝利チームとなります。
- ・6人制の特徴として、守備を専門とするプレーヤー「リベロ」を登録することができます。
- ・リベロは後衛のプレーヤーのみ試合に参加し、後衛にいるどのプレーヤーとも交代することができます。サーブやブロックをすることはできません。
- ・リベロはその他プレーヤーと異なった色のユニフォームを着用します。

※日本バレーボール協会 HPより引用

デフバレーボールの場合

- ・人数や競技形式は基本ルールと同じです。
- ・国内大会では、1試合3セットマッチで行われています。
- ・世界大会では、1試合5セットマッチで行われています。

バレーボールのコート表



出典： <https://www.volleyball-school.net/rules-of-volleyball-court/>

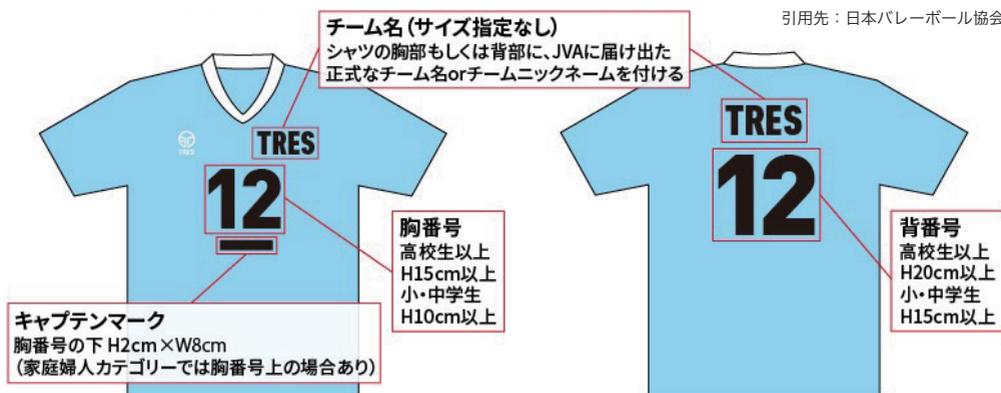
バレーボールの用具

バレーボールの基本用具リスト

用具名称	手話
アンテナ ネットには左右のサイドラインの真上に、幅5cmのサイドバンドという白い帯が付けられている。 このサイドバンドのすぐ横に、ネットにくくりつける棒のことをアンテナといい、直径1cm、長さ1.8mのものをネットの真下に揃えて取り付ける。	
ネット 自陣と相手陣を空中で区切っているメッシュ状のもの。 高さは男子2.43m、女子2.24m。 幅は1m、長さ9.5-10.0m。 メッシュは10cm四方。	
コート 長さ9m×18mの長方形で材質は木製または弾性床材。 中央にネットが張られ区切られている。 コート外はフリー・ゾーン。	
白帯 ネットの上端にある7センチの白い帯の部分。	
ポール ネットを張るための支柱。	

バレーボールのユニフォーム

引用先：日本バレーボール協会



※競技者番号はユニフォームとはっきり区別できる対照的な色。
6人制：1～20番、9人制：1～18番まで(やむを得ない場合は1～99番まで可)

ユニフォームの規定

※日本バレーボール協会(JVA)規定

①ユニフォームとは、ジャージ(シャツ)とショーツ(パンツ)を指します。

6人制においてはソックスもユニフォームに含まれます。

②ユニフォームの色及びデザインは、チームで統一します(リベロプレイヤーを除く)
・チームは、カラーの異なる2種類のユニフォーム(ジャージ、シャツ・ショーツ)を用意することが望ましいです。

・ユニフォームのメインカラー(主たる色)は、概ね2/3以上を占めていることとします。

・リベロプレイヤーはチームの他の競技者とはっきりと区別できる対照的な色のユニフォーム(少なくともジャージ、シャツだけは)を着用しなければなりません。(明瞭に区別できる色、デザインであること)

③ユニフォーム(シャツ)の形状について

・ジャージ(シャツ)は半袖、長袖、ノースリーブが混在していてもよいです。

バレーボールのユニフォーム

ユニフォームの規定

※日本バレーボール協会（JVA）規定

④マーキングについて

- ・番号（背番号）
 - ・ユニフォーム（ジャージ、シャツ）には、選手番号がユニフォームとはっきりと区別できる対照的な色で、明確に表示されていなければなりません。
 - ・選手番号は6人制においては1～20番です。
- ただし、やむを得ない場合は1～99番まで認められています。

⑤キャプテンマークについて

- ・チームキャプテンは、胸のナンバーの下に長さ8cm、幅2cmのマークをジャージ（シャツ）と異なった色で付けていなければなりません。

⑥選手名

- ・ジャージ（シャツ）背部の上部中央に、着用する選手の選手名または通称を表示してもよいです。（選手名の表示を認めていない種別を除く）
- ・選手名を表示する場合、出場する全選手が表示します。
- ・選手名のサイズは、高さ6～8cmです。
- ・文字は、アルファベット横書きにより表示するものです。
- ・表記は、直線状または、肩の曲線に合わせたゆるやかな曲線状とします。

手話言語通訳者の服装について

動きやすく、手話言語が見やすいような服装が基本です。

試合会場は体育館内なので、室内用シューズが必要です。スリッパやサンダルは怪我につながるため避けましょう。

また、場所によっては寒暖対策として、保温性が高いものや、通気性のよい服装を選ぶとよいです。

デフバレーボールの情報保障

バレーボールにおける情報伝達機器

①バレーボールは主審が笛音とシグナル（ジェスチャー）を示すため視覚的にわかるようになっています。選手に笛音が聞こえない場合、主審副審がネット揺らして止める場合があります。

②タイムアウトはフラッシュランプで合図します。

③チームベンチの後方に手話言語通訳者の席があり、タイムアウト時にのみ手話言語通訳が可能です。



国内大会の主な流れ

※デフバレーボールカップの例

1. 主将会議（大会前日）
2. 受付
3. 試合中における審判と各チームとのやり取り
 - ・チーム招集
 - ・ウォームアップ
 - ・公式練習（プロトコール）10分間
 - ・試合
 - ・試合終了後
4. 本部における各チーム、来場者、会場関係者、来賓等とのやり取り
5. 表彰式（大会最終日）

デフバレーボールの情報保障

バレーボール大会での手話言語通訳の任務

1. 国内大会の場合

試合開始から終わりまでの間、手話言語通訳者席に待機し、審判員とのやりとりの通訳が中心です。

反則があった場合やクレームを申し出るときなど試合結果に影響する重要な場面での通訳を担います。

メディカルルーム内でトレーナーとの会話の通訳もあります。

テーピングなどの怪我予防のケア、体調不良時や怪我の時の応急処置などの場面での通訳があります。

その他、本部対応として来賓・視察・メディア対応、主将会議や大会説明、閉会式式典などの通訳があります。



デフバレーボールの情報保障

バレーボール大会での手話言語通訳の任務

2. 国際大会の場合

代表チームスタッフ内に聴者がいる場合、手話言語通訳者が大会期間中帯同します。手話言語通訳者でありながら、チームスタッフとしての動きを求められることもあります。そのためのチームワーク力や長期の合宿にも耐えうる体力も求められる現場です。

大会中は、TD（テクニカルディレクター）会議が国際手話と英語、そして開催国の手話言語で行われます。また選手が無作為にドーピング検査に選ばれた場合のコミュニケーションを円滑にするため、手話言語以外の語学力も必要になってきます。代表チームは月1～2回の合宿を重ね、4年に1度の国際大会に向けて強化合宿をします。監督やコーチは、専門用語や競技ならではの言い回しで指導をしていきます。チームがある程度かたちになってくると戦術が加わってきます。手話言語通訳者は、その競技の専門用語や言い回し、戦術などを理解している必要があります。多くいる選手のコミュニケーション手段も多様であり、手話言語や口話、文字などを駆使してコミュニケーション保障を考えていくのも手話言語通訳者の役割と言えます。

そのほか、アンチドーピング講習会、栄養講習会、アスリート・スタッフ研修など、知識を深めることも大事な選手強化になります。



栄養講習会の様子

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
オーバータイムズ フォア・ヒットの旧称である。 3回のコンタクトで相手チームに返せず、4回目のコンタクトを行った場合のこと。	
オーバーネット オーバーネットして相手チームプレーヤーのプレーを邪魔したり（インターフェア）、相手陣にあるボールに触れたりするとフォールトになる。ただし明確に自陣に来るとわかったボールをオーバーネットしてブロックすることはフォールトとはならない。	
キャッチ・ボール 旧称はホールディングである。 ボールの動きを止めてしまう反則のこと。	
タッチネット ボールに触れるための一連の動作中に、ネット、もしくはアンテナに触れる反則のこと。	
タイムアウト 1チームは1セットにつき2回まで、1回30秒間の作戦タイムを取ることができ、この作戦タイムのこと。	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
ダブルコンタクト 旧称はダブルドリブルである。 一人のプレーヤーが連続してボールに触れた場合にとられるフォールトの一種のこと。	
ポディショナルフォールド 旧称はアウト・オブ・ポジションである。 サーバーがサーブを打った瞬間に、プレーヤーが正規の位置にいないフォールトのこと。	
ボールイン サーブを打ってから1つのプレーが終わる (どちらかのチームにポイントが入る) までの間を ボール イン プレーという。	
ボールアウト ボールがコート外に落ちたり、サイドマーカー (通称アンテナ) に触れたり、その外側を通過して 相手側コートに戻ったりすること。	
ノーカウント どちらのチームが送球側か分からない場合には ノーカウントとなりそのラリーはやり直しとなる。	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
プレーボール 試合を開始すること。 サーブ権を得たチームの「サーブ」から始まる。	
プロトコール 試合開始前、セット間および終了の手順のこと。 3セットマッチ、5セットマッチでその手順が異なる。公式ウォームアップなどの時間も定められている。	
目玉表 (チームラインアップ) 各セットの開始前に両チームの監督が副審に提出する、スターティングメンバーをローテーション順に記した用紙のこと。	
メンバー表 (コンポジションシート) メンバー表のこと。	
ローテーション コート上に前衛3人、後衛3人の計6人の選手がいる。 その6人がサイドアウトを取るたびに、ポジションを時計回りに一つずつズラしていくこと。	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
<p>ゲームキャプテン コートでプレーしているプレーヤーの代表のこと。</p>	
<p>チームキャプテン チームの代表のこと。 試合開始前に記録用紙にサインし、チームを代表してコイントスをする。</p>	
<p>サーブ ボールを相手コートに送る行為のこと。</p>	 
<p>スパイク 相手コートに向けてボールを叩きつけるように打つプレーのこと。</p>	 
<p>速攻(クイック) スパイカーが短い助走でジャンプし、低く素早く上げられたトスをすぐに振り抜く攻撃のこと。</p>	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
<p>トス</p> <p>レシーブで上がったボールを味方のスパイカー（アタッカー）にパスするプレーのこと。</p> 	
<p>ブロック</p> <p>相手のスパイク・ヒット、返球に対して、ネット際で手でボールを抑えるプレーのこと。</p>	
<p>レシーブ</p> <p>相手からのスパイクやサーブを受け、セッターと呼ばれるトスを上げるプレーヤーにボールを返すプレーのこと。</p> 	
<p>ワンタッチ</p> <p>ブロッカーに限らず相手チームの誰かにボールが触ってアウトになること。</p>	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
<p>スターティングメンバー 試合開始時の出場選手のこと。</p>	
<p>セット (ゲーム) 終了 試合終了のこと。</p>	
<p>ディグ (スパイクレシーブ) アタックレシーブのこと。</p>	
<p>レセプション (サーブレシーブ) 相手からのサーブを受け、そのボールをレシーブすること。</p>	

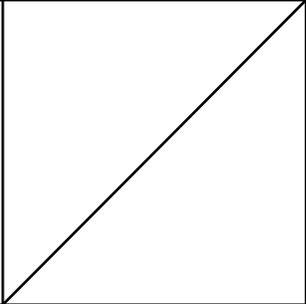
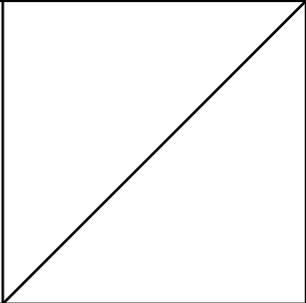
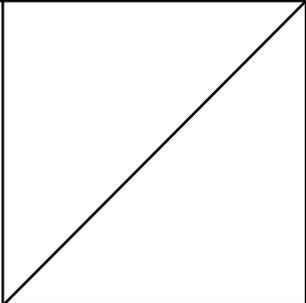
バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

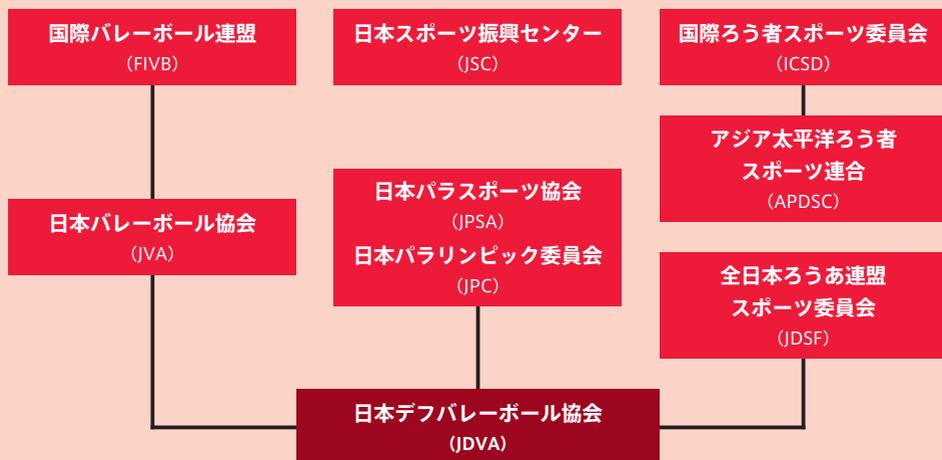
専門用語と意味	映像
スリーメン 3人でコートを守る練習のこと。	
吸い込み ブロックした際、ボールがブロッカーとネット間に入り込むこと。	
パンケーキ (レシーブ) 地面とボールの間に手のひらを滑り込ませてレシーブすること。	
アウトサイドヒッター (OH) フロントレフト、もしくはフロントライトのポジションからスパイクを打つ選手のこと。 主に左右両サイドからスパイクを打つ選手のこと。	

バレーボール用語の手話

専門用語の手話言語表現リスト

専門用語と意味	映像
<p>ミドルブロッカー (MB)</p> <p>相手からのスパイクに対して手をかざし壁となり「ブロック」で防御する、守備の要となるポジションのこと。</p>	
<p>セッター (S)</p> <p>セッターは、スパイカーが打ちやすいようにボールをセットする (=トスを上げる) 役割を担うポジションのこと。</p> <p>トスをあげる役目の選手のこと。</p>	
<p>オポジット (OP)</p> <p>セッターの対角に位置する選手のこと。</p>	
<p>リベロ (L)</p> <p>後衛でレシーブのみを行なう、守備に特化したポジションのこと。</p>	

[組織]



一般社団法人日本デフバレーボール協会

1998年9月に設立し、2001年に一般社団法人に移行しました。一般社団法人日本デフバレーボール協会は、ろう者スポーツの関係団体と協力し、国内のデフバレーボールチームを統括し、加盟団体相互の連携・協力を促進して、デフバレーボールの健全な普及発展を図る事を目的としています。デフバレーボールを通じて、聴覚障害への理解を深め、共存社会の実現をめざします。

[編集協力]

一般社団法人日本デフバレーボール協会

<https://www.main.jdva.org/>

デフアスリートをささえる

競技別手話言語通訳ガイド [バレーボール編]

発行日 2024年3月1日

発行 一般財団法人全日本ろうあ連盟
スポーツ委員会

TEL : 03-3268-8847

FAX : 03-3267-3445

メール : jfd-sc@jfd.or.jp

URL : <https://www.jfd.or.jp/sc/>

このガイドブックは、令和5年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツの指導・普及等のための競技別マニュアル等の作成）」の一環で作成しました。

[参考情報]

日本バレーボール協会 (JVA)

<https://www.jva.or.jp/>

日本女子デフバレーボールPR動画

<https://www.youtube.com/watch?v=FiIj2CpyZ6k&t=0s>



日本男子デフバレーボールPR動画

<https://www.youtube.com/watch?v=beP7FSM0rjI>

